



厚生労働省発表  
平成21年3月18日

厚生労働省大臣官房統計情報部

担当係：社会統計課縦断調査室出生児調査係

電話：03-5253-1111（内線：7474）

03-3595-2413（ダイヤルイン）

## 21世紀出生児縦断調査（特別報告）結果の概況 2001年ベビーの軌跡（未就学編）

### 目 次

はじめに	1ページ
調査の概要	1
結果の集計	2
結果の概要	
1 家族の状況	
(1) 同居者の構成	3
(2) きょうだいの構成	4
(3) 保育者	5
(4) 母の就業状況	7
2 子育ての意識	
(1) 子どもを育てていてよかったと思うこと	15
(2) 子どもを育てていて負担に思うことや悩み	16
3 子どもの生活の状況	
(1) 子どもの成長（身長と体重）	17
(2) テレビ・コンピュータゲーム	19
(3) 父と子ども	21
参 考	23
統 計 表	25
用語の定義	29
調査項目一覧	32

21世紀出生児縦断調査(特別報告)の結果は、厚生労働省のホームページにも掲載されています。

アドレス（<http://www.mhlw.go.jp/toukei/index.html>）

## はじめに

本報告は、平成13年より毎年調査・公表している「21世紀出生児縦断調査」をもとに、出生から5歳までの間の家族状況、母の就業状況の変化、子どもの成長等を多面的に分析し、「21世紀出生児縦断調査(特別報告)」として取りまとめたものである。

## 調査の概要

### 1 調査の目的

この調査は、同一客体を長年にわたって追跡調査する縦断調査として、平成13年度から実施を始めた承認統計であり、21世紀の初年に出生した子の実態及び経年変化の状況を継続的に観察することにより、少子化対策等厚生労働行政施策の企画立案、実施等のための基礎資料を得ることを目的としている。

### 2 調査の対象

全国の2001年1月10日から17日の間及び7月10日から17日の間に出生した子を対象とし、厚生労働省が人口動態調査の出生票を基に調査客体を抽出した。双子、三つ子についてもそれぞれの子を対象としている。

### 3 調査の時期

調査日及び調査時年齢は以下のとおりである。

	調査時年齢	調査日	
		1月生まれ	7月生まれ
第1回	6か月	平成13年8月1日	平成14年2月1日
第2回	1歳6か月	平成14年8月1日	平成15年2月1日
第3回	2歳6か月	平成15年8月1日	平成16年2月1日
第4回	3歳6か月	平成16年8月1日	平成17年2月1日
第5回	4歳6か月	平成17年8月1日	平成18年2月1日
第6回	5歳6か月	平成18年8月1日	平成19年2月1日

### 4 主な調査事項

#### (1) 家族の状況

同居者、保育者、父母の就業状況、父母の労働時間、父母の収入

#### (2) 子どもの生活の状況

起床・就寝時間、通園の状況、子どもの遊びのようす、遊び場所、遊び相手、遊びで気にかかること、習い事の状況、テレビを見る時間、コンピュータゲームをする時間、子どもの接し方、子どもの行動、手伝い、病気やけが、身長・体重

### (3) 子育て意識

父母の子どもとの接し方、食事時に特に気をつけていること、子どもを育ててよかったと思うこと、子どもを育てていて負担に思うことや悩み、子育ての不安や悩みの有無、子育て費用、父母が子どもと過ごす時間

※ 第1回調査から第6回調査までの調査項目については、32 ページ「調査項目一覧」を参照。

## 5 調査の方法

調査票の配布及び回収は郵送により行った。

## 6 調査票の回収状況等

調査票の配布数及び回収数は以下のとおりである。

	1月生まれ			7月生まれ			合計			通算
	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率	回収率
第1回	26,620	23,423	88.0%	26,955	23,592	87.5%	53,575	47,015	87.8%	87.8%
第2回	23,391	21,923	93.7%	23,575	22,002	93.3%	46,966	43,925	93.5%	82.0%
第3回	23,374	21,365	91.4%	23,523	21,447	91.2%	46,897	42,812	91.3%	79.9%
第4回	22,439	20,699	92.2%	22,398	20,860	93.1%	44,837	41,559	92.7%	77.6%
第5回	21,735	19,824	91.2%	21,824	19,993	91.6%	43,559	39,817	91.4%	74.3%
第6回	21,020	19,154	91.1%	21,167	19,383	91.6%	42,187	38,537	91.3%	71.9%

## 結果の集計

### 1 集計客体数

本報告では、第1回調査から第6回調査まで続けて回答のあった 35,785 を基本の集計客体とした。

### 2 集計

結果の集計は、厚生労働省大臣官房統計情報部において行った。

### 3 利用上の注意

#### (1) 表章記号の規約

計数のない場合	—
統計項目のありえない場合	・
比率が微小（0.05 未満）の場合	0.0

(2) この概況に掲載の数値は四捨五入しているため、内訳の合計が総数に合わない場合がある。

# 結果の概要

## 1 家族の状況

### (1) 同居者の構成

第1回調査時を基準として、主な同居者構成の変化をみると、「16大都市」では「父母又は父母ときょうだいのみ」は第6回調査までに年々減少しており、「父母と祖父母」が微増の傾向にある。一方、「その他の市・郡部」は「父母又は父母ときょうだいのみ」は「16大都市」と同様に第6回調査までに年々減少しているが、「父母と祖父母」の変化はそれほどみられない。

(表1)

表1 主な同居者構成の変化(指数:第1回調査=100)

	第1回調査 (月齢6か月)	第2回調査 (1歳6か月)	第3回調査 (2歳6か月)	第4回調査 (3歳6か月)	第5回調査 (4歳6か月)	第6回調査 (5歳6か月)	
	(単位:%)	総数					
総数	(100.0)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
父母と同居	(98.2)	100.0	99.1	98.2	97.2	96.1	
父母又は父母ときょうだいのみ	(77.4)	100.0	98.1	96.9	96.1	95.0	
(再掲)ひとり	(38.8)	100.0	93.0	67.8	46.0	34.8	
(再掲)兄姉のみ	(38.6)	100.0	96.6	89.4	84.0	79.8	
父母と祖父母	(20.5)	100.0	103.2	102.6	101.7	100.5	
(再掲)ひとり	(8.7)	100.0	96.2	66.8	46.7	35.4	
(再掲)兄姉のみ	(11.8)	100.0	100.0	91.2	84.7	80.0	
父母とその他	(0.4)	100.0	94.9	108.1	94.9	86.8	
父又は母と同居	(1.7)	100.0	148.1	203.6	256.0	313.5	
その他	(0.0)	100.0	242.9	228.6	257.1	771.4	
		16大都市					
総数	(100.0)	100.0	98.9	97.7	96.9	96.8	
父母と同居	(98.3)	100.0	98.1	96.2	94.3	93.4	
父母又は父母ときょうだいのみ	(87.5)	100.0	97.6	95.4	93.2	92.2	
(再掲)ひとり	(46.1)	100.0	93.4	70.0	48.9	38.3	
(再掲)兄姉のみ	(41.4)	100.0	95.9	89.1	83.3	79.2	
父母と祖父母	(10.5)	100.0	102.3	102.8	103.5	103.8	
(再掲)ひとり	(4.7)	100.0	94.2	74.4	55.4	44.1	
(再掲)兄姉のみ	(5.8)	100.0	101.8	95.0	90.7	85.3	
父母とその他	(0.3)	100.0	100.0	111.1	100.0	74.1	
父又は母と同居	(1.6)	100.0	144.6	186.3	252.5	299.3	
その他	(0.0)	100.0	366.7	166.7	100.0	266.7	
		その他の市・郡部					
総数	(100.0)	100.0	100.3	100.5	100.7	100.6	
父母と同居	(98.2)	100.0	99.4	98.6	97.8	96.6	
父母又は父母ときょうだいのみ	(74.2)	100.0	98.2	97.3	96.8	95.6	
(再掲)ひとり	(36.4)	100.0	92.7	66.6	44.6	33.2	
(再掲)兄姉のみ	(37.8)	100.0	96.8	89.4	83.9	79.7	
父母と祖父母	(23.6)	100.0	103.3	102.6	101.4	100.0	
(再掲)ひとり	(9.9)	100.0	96.5	65.7	45.4	34.1	
(再掲)兄姉のみ	(13.7)	100.0	99.7	90.7	83.9	79.2	
父母とその他	(0.4)	100.0	93.6	107.3	92.7	87.2	
父又は母と同居	(1.8)	100.0	149.1	208.6	256.6	316.8	
その他	(0.0)	100.0	150.0	275.0	375.0	1150.0	

注: 1) 第1回調査から第6回調査まで回答を得た者(総数 35,785)を集計。

2) 第1回調査の( )は縦構成比である。

3) (再掲)ひとり、兄姉のみは、第1回調査時のきょうだい構成をとりあげ、第2回調査以降の弟妹のみ、兄弟姉妹ありは表章していない。

4) 「16大都市」は、第1回調査から第5回調査までの住所地を、第6回調査時の「16大都市」の地域に区分した。

調査対象児の第6回調査時における住所地は以下のとおりである。

「16大都市」 東京都区部、札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、静岡市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、広島市、北九州市、福岡市

「その他の市・郡部」 16大都市以外の市及び郡部

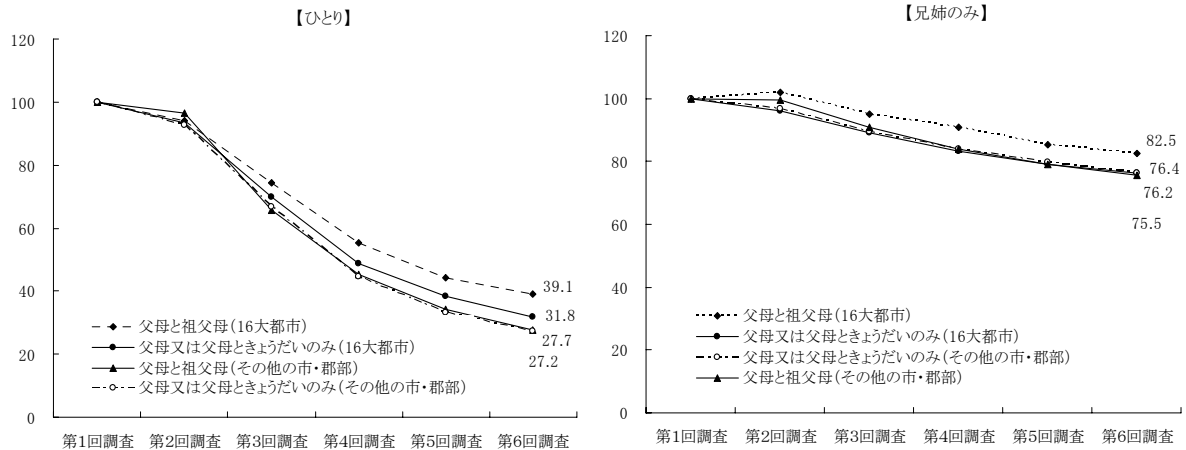
5) 総数には同居者構成「不詳」、外国在住分を含む。

## (2) きょうだいの構成

きょうだい構成の変化をみると、第1回調査時のきょうだい構成「ひとり」は、「その他の市・郡部」では年を重ねるごとに弟妹が生まれる割合が「16大都市」より高く、「ひとり」の割合が少ない。一方、第1回調査時に「兄弟のみ」では、「ひとり」と比べ変化は少ないが、「その他の市・郡部」では「16大都市」に比べ「兄弟姉妹あり」の割合が高くなっている。

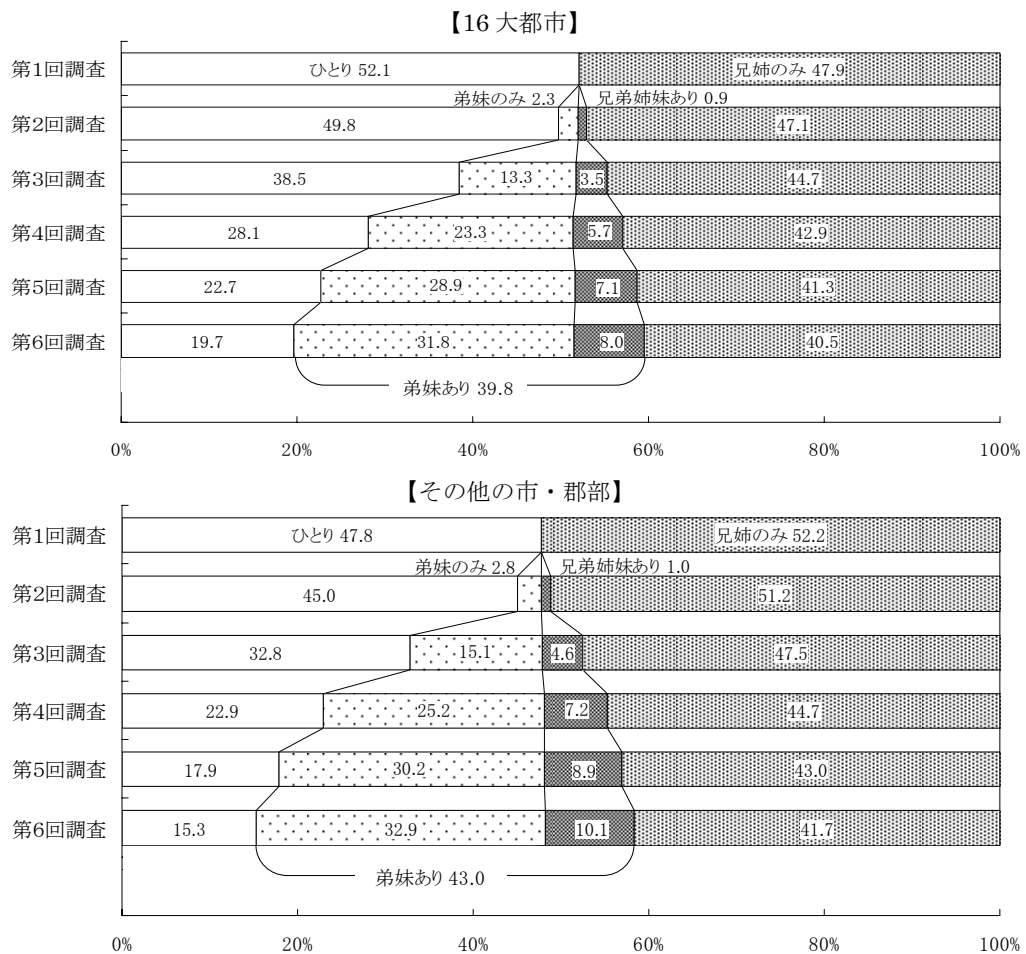
(図1、図2)

図1 主な同居者構成別にみたきょうだい構成の変化（指数：第1回調査=100）



注：1）第1回調査から第6回調査まで回答を得た者（総数 35,785）を集計。  
2）「16大都市」は、第1回調査から第5回調査までの住所地を、第6回調査時の「16大都市」の地域に区分した。

図2 きょうだい構成の変化



注：1）第1回調査から第6回調査まで回答を得た、きょうだい構成の「不詳」を除く者（総数 35,634）を集計。  
2）「16大都市」は、第1回調査から第5回調査までの住所地を、第6回調査時の「16大都市」の地域に区分した。

### (3) 保育者

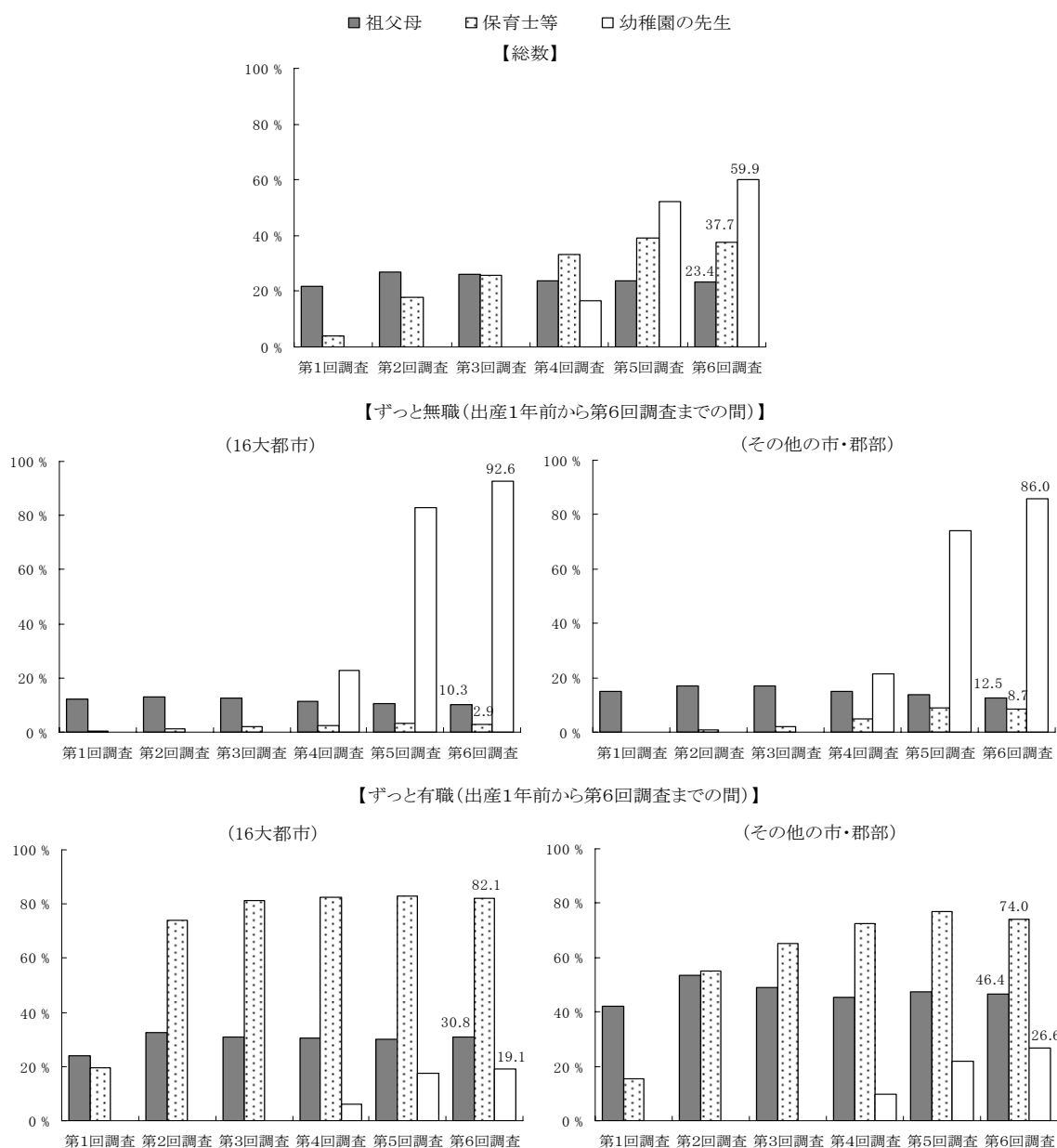
#### ア ふだんの保育者

母の就業の有無別に父母以外のふだんの保育者（複数回答）をみると、「ずっと無職」（出産1年前から第6回調査までの間）は、「16大都市」で第5回調査から「幼稚園の先生」の割合が高くなり、第6回調査では9割を超えて「幼稚園の先生」となっている。「その他の市・郡部」においても「16大都市」と同様に「幼稚園の先生」が第5回調査から高くなっているが、「保育士等」の割合もわずかであるが高くなっている。

「ずっと有職」（出産1年前から第6回調査までの間）は「ずっと無職」に比べ「祖父母」、「保育士等」の割合が全体で高くなっている。特に「16大都市」では第2回調査以降の「保育士等」の割合が7割を超え、「その他の市・郡部」では「祖父母」の割合が各回で4割を超えている。

(図3)

図3 母の就業の有無別にみたふだんの保育者（複数回答）の変化



注：1) 母と同居している、第1回調査から第6回調査まで回答を得た者(総数 35,363)を集計。  
 2) ふだんの保育者のうち「母」、「父」、「その他」は表章していない。  
 3) 「保育士等」には「保育所・託児所の保育士など」「保育ママさんやベビーシッター」を含む。  
 4) 「16大都市」は、第1回調査から第5回調査までの住所地を、第6回調査時の「16大都市」の地域に区分した。

## イ 祖父母

祖父母の同居の有無別に祖父母の保育状況をみると、「16大都市」では同居の割合が低い、「祖父母の同居あり」のうち「ふだんの保育者」の割合が、「その他の市・郡部」に比べ第3回調査以降、若干であるが高い傾向にある。一方「祖父母の同居なし」では「その他の市・郡部」が「16大都市」に比べ高くなっている。(表2)

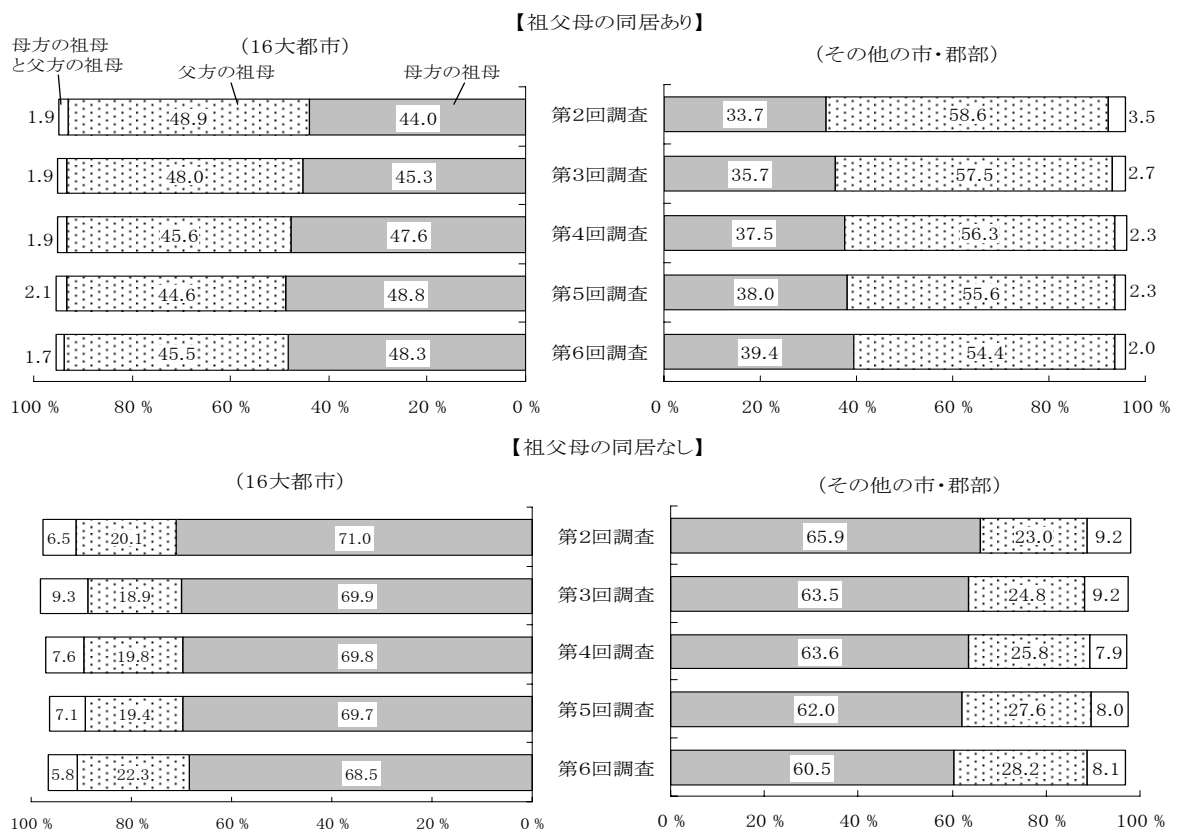
ふだんの保育者(複数回答)が祖父母のうち「祖母」についてみると、「祖父母の同居あり」では「16大都市」が第2回、第3回調査では、「父方の祖母」(対象児の父の母親)の割合が高いが、第4回調査以降は「母方の祖母」(対象児の母の母親)の割合が高くなっており、「その他の市・郡部」では、いずれの回でも「父方の祖母」の割合が高い。一方「祖父母の同居なし」では、「16大都市」、「その他の市・郡部」いずれにおいても「母方の祖母」の割合が高く、また「祖父母の同居あり」に比べ「母方の祖母と父方の祖母」が高くなっている。(図4)

表2 祖父母の同居の有無、ふだんの保育者(複数回答)が「祖父母」の割合

	祖父母の同居あり(総数)	16大都市				その他の市・郡部			
		祖父母の同居あり		祖父母の同居なし		祖父母の同居あり		祖父母の同居なし	
		ふだんの保育者	ふだんの保育者	ふだんの保育者	ふだんの保育者	ふだんの保育者	ふだんの保育者	ふだんの保育者	
第1回調査	21.5	11.3	56.3	88.7	9.7	24.7	58.0	75.2	12.6
第2回調査	22.7	12.1	63.6	87.9	12.8	25.9	63.8	74.1	17.6
第3回調査	23.0	12.3	61.1	87.7	13.0	26.2	59.6	73.8	17.2
第4回調査	23.1	13.0	59.0	87.0	11.5	26.2	56.7	73.8	15.1
第5回調査	23.1	13.1	57.0	86.9	11.7	26.2	55.7	73.8	15.3
第6回調査	23.3	13.4	57.0	86.6	11.2	26.4	55.7	73.6	14.9

注：1) 第1回調査から第6回調査まで回答を得た者(総数35,785)を集計。  
 2) 総数には外国在住分を含む。  
 3) 「16大都市」は、第1回調査から第5回調査までの住所地を、第6回調査時の「16大都市」の地域に区分した。  
 4) 「祖父母の同居あり」、「祖父母の同居なし」は総数に対する割合。  
 5) 「ふだんの保育者」は、「祖父母の同居あり」、「祖父母の同居なし」に対する割合。

図4 祖父母の同居の有無、ふだんの保育者(複数回答)が祖父母のうち「祖母」の割合



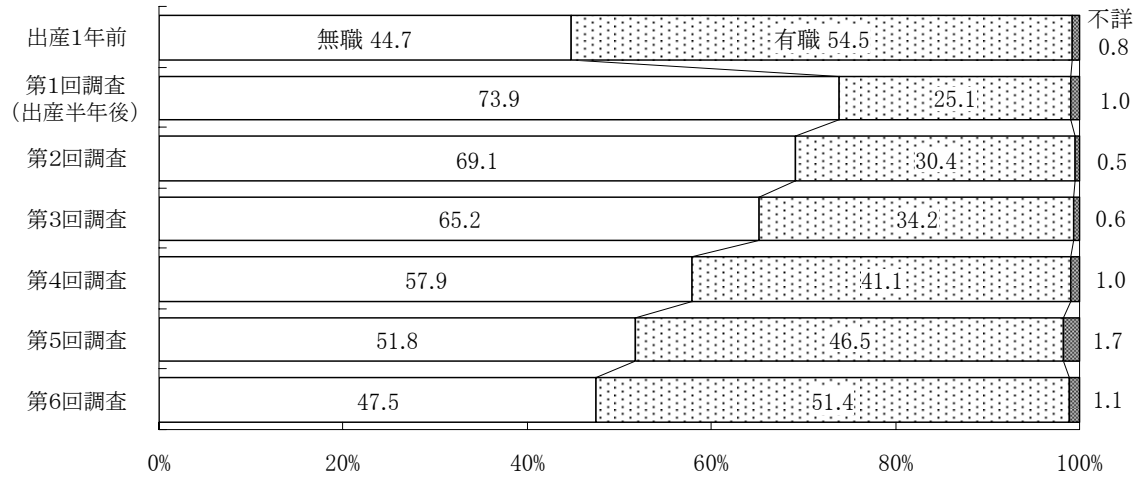
注：1) 第1回調査から第6回調査まで回答を得た者(総数 35,785)を集計。  
 2) 第1回調査のふだんの保育者「祖父母」は「母方」と「父方」を区分して調査していない。  
 3) ふだんの保育者「祖父母」のうち、「祖父のみ」は表章していない。  
 4) 「16大都市」は、第1回調査から第5回調査までの住所地を、第6回調査時の「16大都市」の地域に区分した。

#### (4) 母の就業状況

##### ア 就業の有無

出産1年前に54.5%であった母の「有職」の割合は、第1回調査（出産半年後）で25.1%と減少したが、年々増加して第6回調査では51.4%となり、出産1年前に近づきつつある（図5）。

図5 母の就業の有無の変化



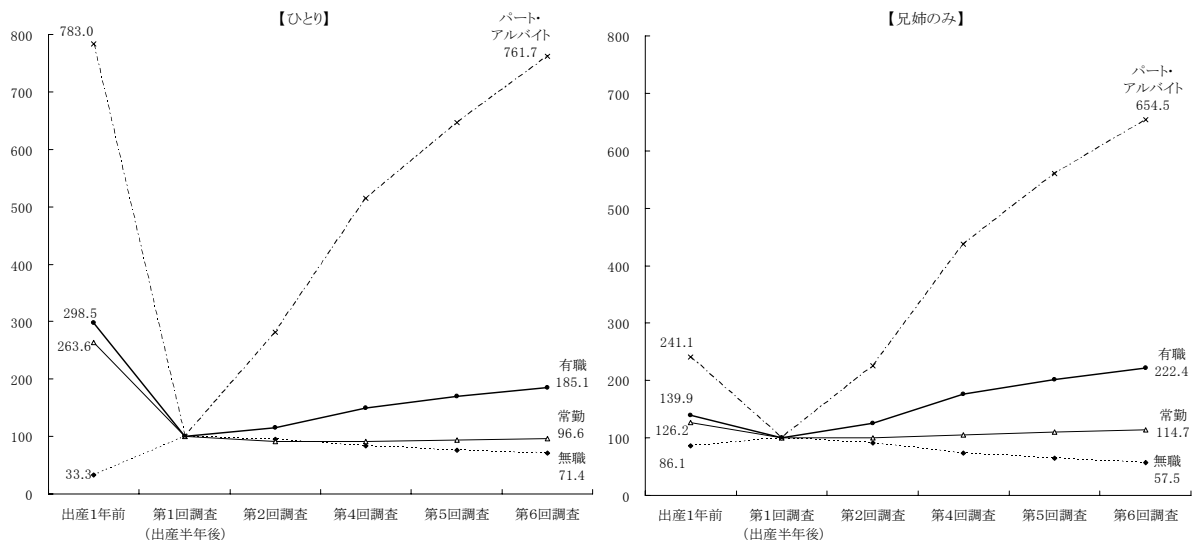
注：母と同居している、第1回調査から第6回調査まで回答を得た者（総数 35,363）を集計。

##### イ きょうだい構成別にみた母の就業状況の変化

第1回調査時のきょうだい構成別に母の就業状況の変化を指数（出産半年後=100）でみると、「ひとり」では「パート・アルバイト」が出産1年前の指数が783.0となっており、第6回調査（指数761.7）で出産1年前の値に近づきつつあるが、「有職」では第6回調査においても出産1年前の値に達していない。一方の「兄弟のみ」では「パート・アルバイト」が出産1年前の指数が241.1となっており、第6回調査（指数654.5）においては出産1年前の約2.7倍となり、「有職」でも第4回調査以降で出産1年前より高く推移している。（図6）

図6 第1回調査時のきょうだい構成別にみた母の就業状況の変化

（指数：第1回調査（出産半年後）=100）



注：1) 母と同居している、第1回調査から第6回調査まで回答を得た、母の就業状況「不詳」を除く者（総数33,395）を集計。  
2) 第3回調査は母の就業状況を調査していない。

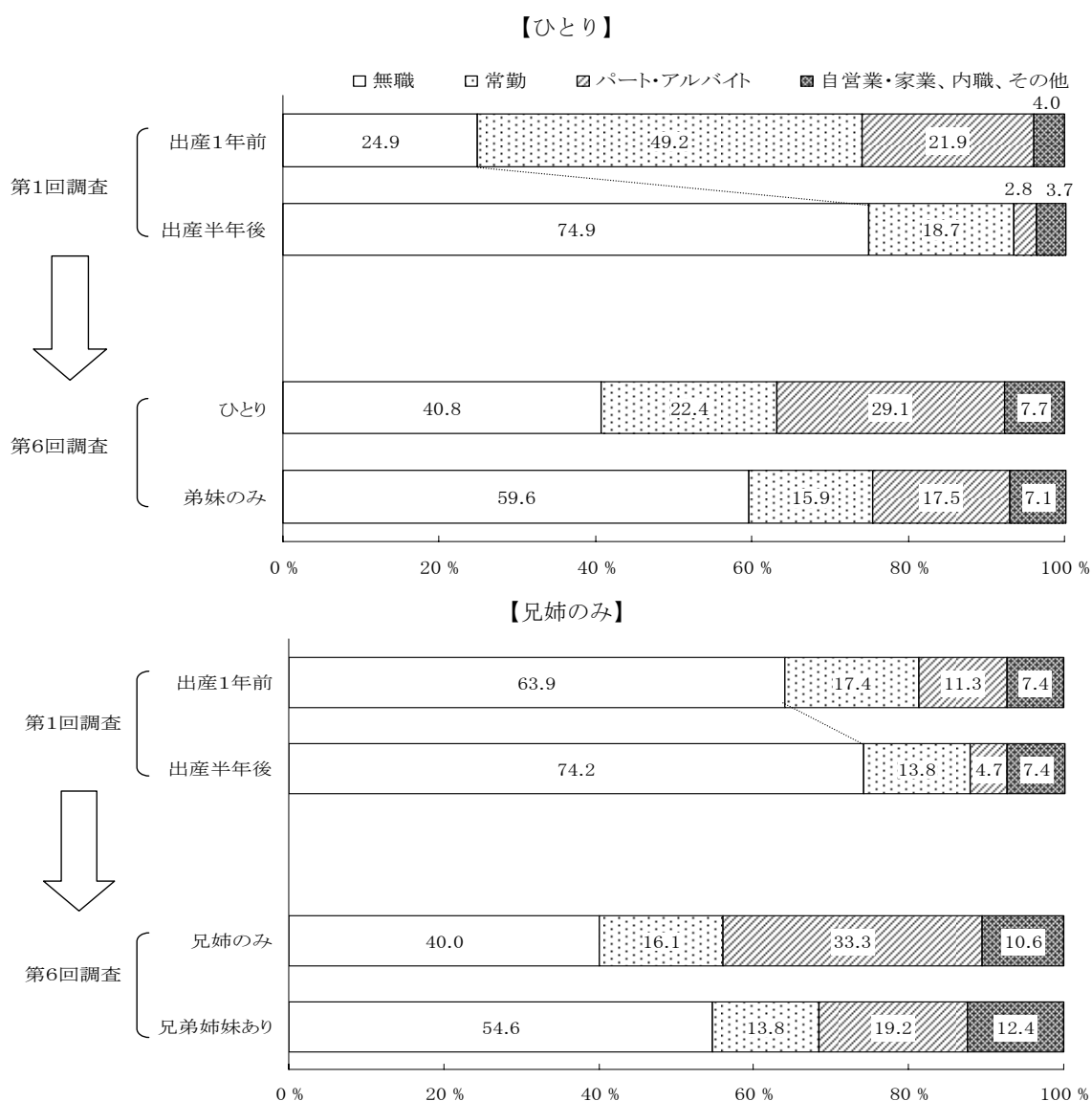


第1回調査時（月齢6か月）のきょうだい構成別に、出産1年前からの母の就業状況の変化をみると、第1回調査時のきょうだい構成「ひとり」は、出産1年前では「有職」が75.1%、「無職」が24.9%であったが、出産半年後では出産を機に「有職」から「無職」に変化し、「無職」が74.9%、「有職」が25.1%となった。

一方、きょうだい構成「兄弟のみ」では、出産1年前では「無職」の割合が高く63.9%で、「有職」が36.1%となっている。出産半年後では「無職」の割合が微増し74.2%で、「有職」が25.8%となった。

いずれのきょうだい構成をみても、第6回調査では、「ひとり」及び「兄弟のみ」は約6割まで就業は増えており、他方、対象児より下のきょうだいがいる母の就業の割合は低くなっている。（図7）

図7 第1回調査時のきょうだい構成別にみた母の就業状況及びきょうだい構成の変化



注：母と同居している、第1回調査から第6回調査まで回答を得た、母の就業状況「不詳」を除く者（総数33,395）を集計。

### ウ 出産1年前に「無職」の母の就業の変化(第6回調査時のきょうだい構成別)

出産1年前に「無職」の母の就業の変化を、第6回調査時(5歳6か月)のきょうだい構成別にみると、「弟妹のみ」は出産1年前から第6回調査まで「ずっと無職」(70.2%)の割合が最も高く、「就労開始」(19.1%)は低くなっている。また「兄姉のみ」は「ずっと無職」(47.6%)が最も低く、「就労開始」(40.5%)が高くなっている。(図8-1)

出産1年前に「無職」の母が、「就労開始」をした調査回(対象児年齢)を、第6回調査時のきょうだい構成別にみると、「ひとり」は第4回調査(3歳6か月)が22.1%と最も高い。他は第6回調査(5歳6か月)で「弟妹のみ」34.9%、「兄弟姉妹あり」33.9%、「兄姉のみ」24.0%と最も高くなっている。(図8-2)

図8-1 出産1年前に「無職」の母の就業の変化(第6回調査時のきょうだい構成別)

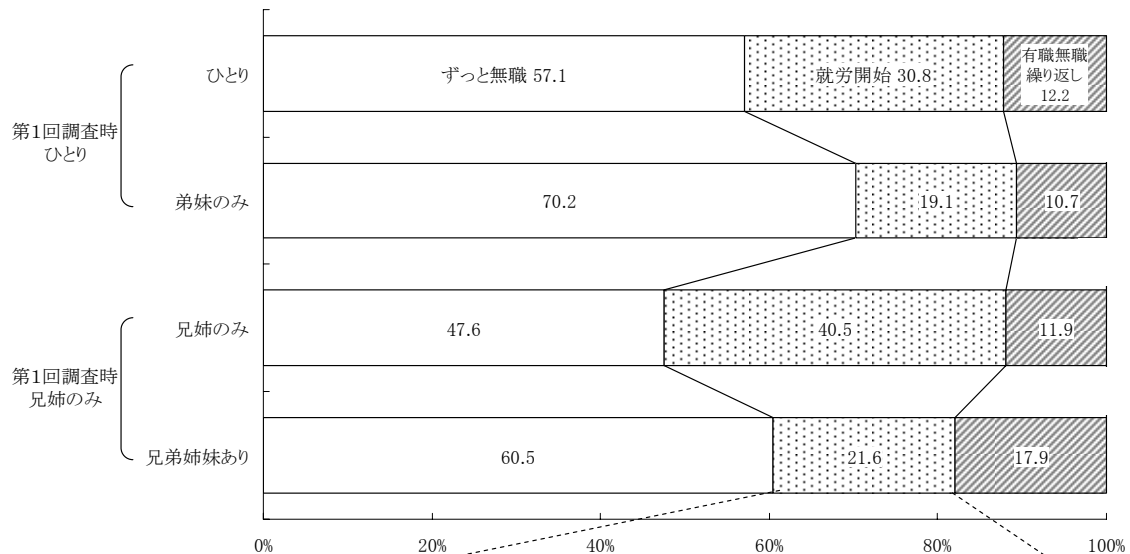


図8-2 就労開始の調査回(対象児年齢)

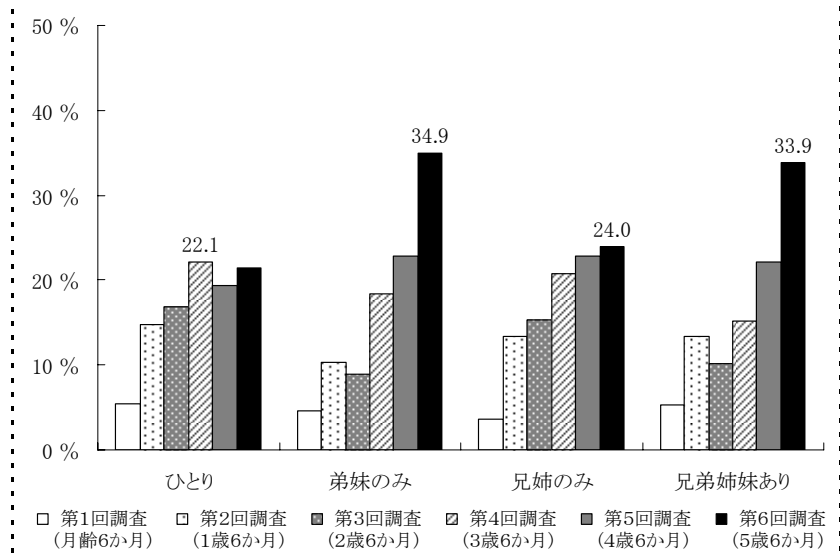


図8-1注: 1) 母と同居している、第1回調査から第6回調査まで回答を得た、母の就業状況「不詳」を除く者(総数33,395)を集計。

2) 出産1年前に「無職」の母の就業状況の区分は以下のとおりである。

「ずっと無職」 出産1年前から第6回調査まで、全て無職。

「就労開始」 出産後いずれかの時点から有職を継続している。

「有職無職繰り返し」 出産後有職、無職を繰り返す。第6回調査時の有職、無職は問わない。

図8-2注: 母と同居している、第1回調査から第6回調査まで回答を得た、母の就業状況「不詳」を除く、出産1年前が「無職」の母の就業状況が「有職」になり、第6回調査まで「有職」を継続した者(総数4,996)を集計。図8-1の「就労開始」を100としている。

## エ 出産1年前に「有職」の母の就業の変化(第6回調査時のきょうだい構成別)

出産1年前に「有職」の母の就業の変化を、第6回調査時(5歳6か月)のきょうだい構成別にみると、出産1年前から第6回調査まで「ずっと有職」では、「兄姉のみ」(52.8%)、「兄弟姉妹あり」(45.6%)の割合が高い。「出産後離職その後有職」では、「ひとり」(37.7%)、「兄姉のみ」(30.6%)の割合が高くなっている。「出産後離職その後無職」の場合、「弟妹のみ」(45.9%)の割合が高い。(図9-1)

出産1年前に「有職」の母が、「出産半年後離職その後有職」開始をした調査回(対象児年齢)を、第6回調査時のきょうだい構成別にみると、「兄姉のみ」39.0%、「ひとり」26.5%、「兄弟姉妹あり」24.5%と、第2回調査(1歳6か月)の割合が最も高い。「弟妹のみ」は第6回調査(5歳6か月)が29.0%と最も高くなっている。(図9-2)

図9-1 出産1年前に「有職」の母の就業の変化(第6回調査時のきょうだい構成別)

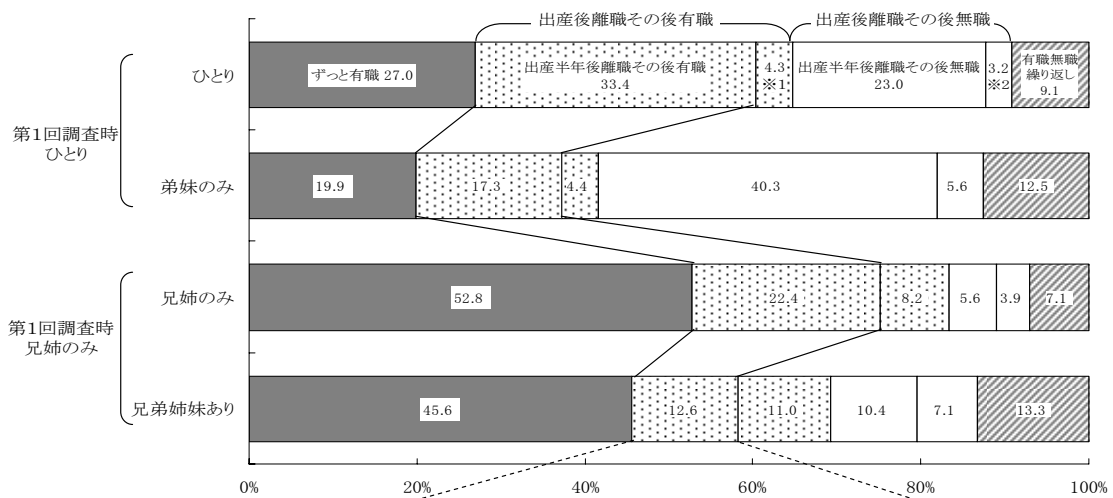


図9-2 出産半年後離職その後有職開始の調査回(対象児年齢)

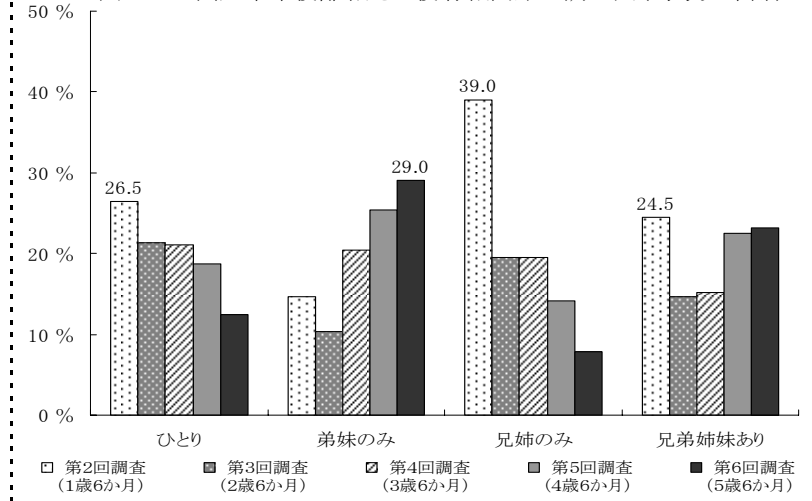


図9-1注: 1) 母と同居している、第1回調査から第6回調査まで回答を得た、母の就業状況「不詳」を除く者(総数33,395)を集計。

2) 出産1年前に「有職」の母の就業状況の区分は以下のとおりである。

- 「ずっと有職」 出産1年前から第6回調査まで、全て有職。
- 「出産後離職その後有職」 出産後いずれかの時点で離職し、その後有職になり有職を継続している。
- 「出産半年後離職その後有職」 出産半年後までに離職し、その後有職になり有職を継続している。
- ※1: 出産半年後は有職でその後離職し、その後有職になり有職を継続している。
- 「出産後離職その後無職」 出産後いずれかの時点で離職し、その後無職を継続している。
- 「出産半年後離職その後無職」 出産半年後までに離職し、その後無職を継続している。
- ※2: 出産半年後は有職でその後離職し、その後無職を継続している。
- 「有職無職繰り返し」 出産後有職、無職を繰り返す。第6回調査時の有職、無職は問わない。

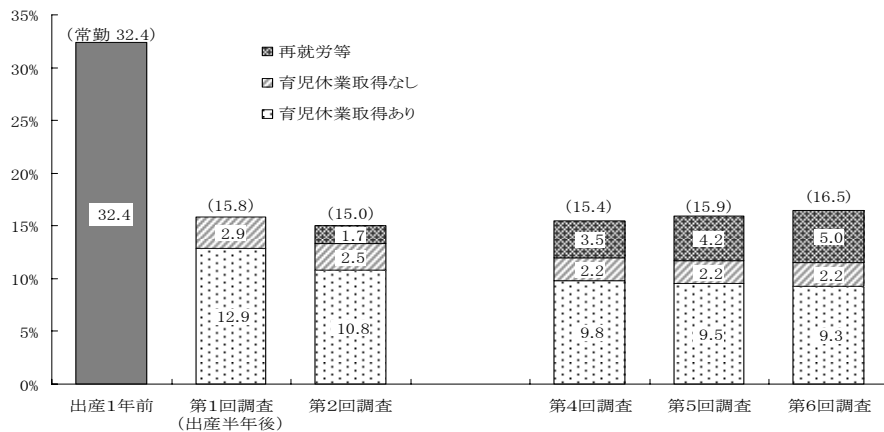
図9-2注: 母と同居している、第1回調査から第6回調査まで回答を得た、母の就業状況「不詳」を除く、出産1年前が「有職」の母の就業状況が、出産半年後「無職」、その後「有職」になり第6回調査まで「有職」を継続した者(総数3,997)を集計。  
図9-1の「出産半年後離職その後有職」を100としている。

## オ 出産半年後に育児休業を取得した母の就業状況の変化

出産半年後に「常勤」の母の育児休業取得の有無をみると、「常勤」15.8%のうち「育児休業取得あり」12.9%、「育児休業取得なし」2.9%、いずれも年を重ねるごとに微減傾向にあり、第6回調査では、それぞれ9.3%、2.2%となっている（図10）。

育児休業取得の有無別にきょうだい構成をみると、「育児休業取得あり」では「ひとり」58.2%、「兄弟のみ」41.8%、「育児休業取得なし」では「ひとり」48.2%、「兄弟のみ」51.8%となっている。その後の変化をみると年を重ねるごとにいずれも弟妹が生まれ、第6回調査では、「育児休業取得あり」で「ひとり」18.4%、「兄弟あり」48.1%、「育児休業取得なし」では「ひとり」18.1%、「兄弟あり」41.1%となっており、「育児休業取得あり」での「兄弟あり」の割合が7.0%高くなっている。（図11）

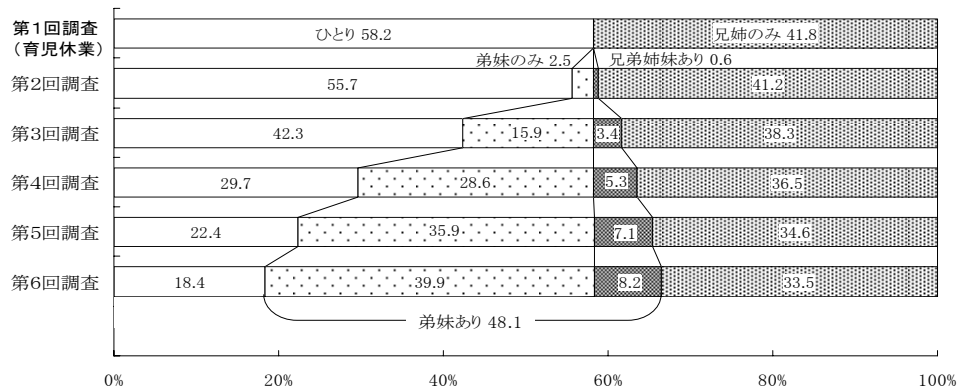
図10 母の就業状況「常勤」の変化



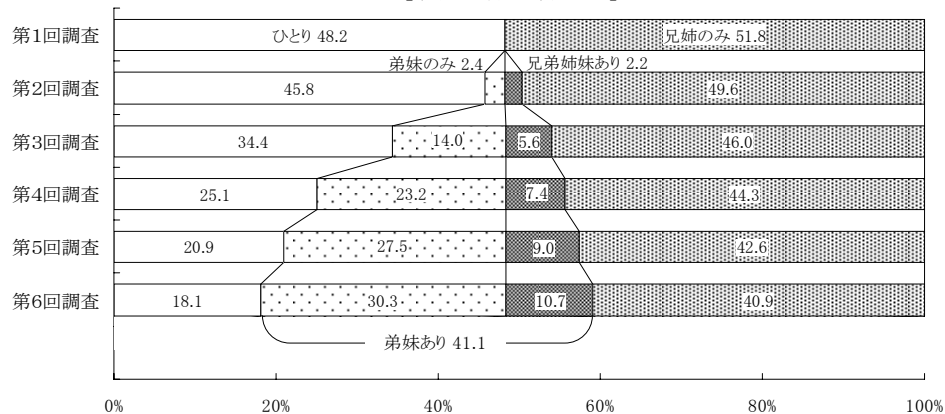
- 注：1) 母と同居している、第1回調査から第6回調査まで回答を得た者(総数 35,363)を集計。  
 2) 「育児休業取得あり」とは、第1回調査(出産半年後)に育児休業を「すでに取得した」、「現在、育児休業中である」、「これから取得する予定である」者をいう。  
 3) 「再就労等」とは、第1回調査(出産半年後)に「常勤」以外の者をいう。  
 4) 「常勤」には第1回調査(出産半年後)の「育児休業取得の有無不詳」を含む。  
 5) 第3回調査は母の就業状況を調査していない。

図11 母の育児休業取得の有無別にみたきょうだい構成の変化

### 【育児休業取得あり】



### 【育児休業取得なし】

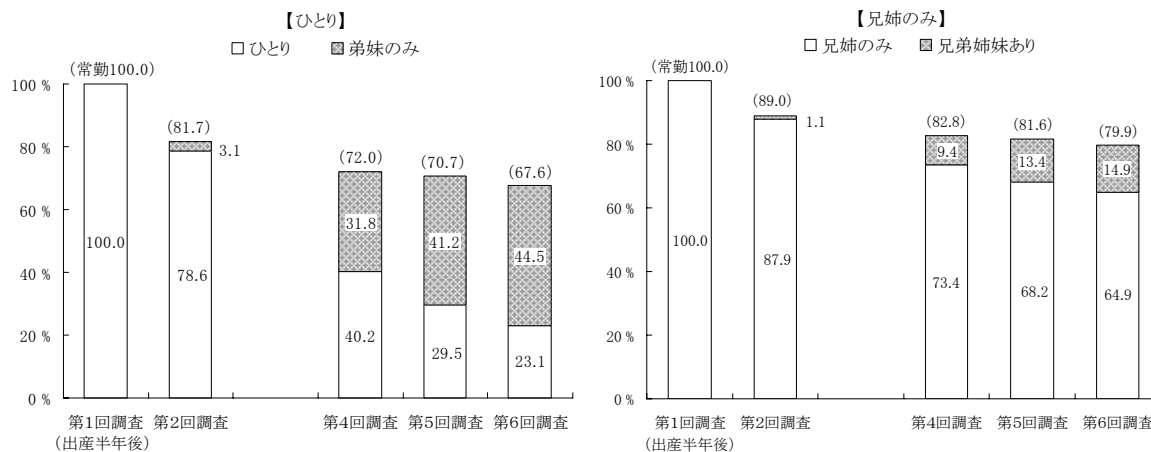


- 注：1) 第1回調査から第6回調査まで回答を得た、第1回調査(出産半年後)の就業状況が「常勤」の母と同居している、きょうだい構成の「不詳」を除く者(総数5,636)を集計。  
 2) 「育児休業取得あり」とは、第1回調査(出産半年後)に育児休業を「すでに取得した」、「現在、育児休業中である」、「これから取得する予定である」者をいう。

育児休業を取得した母の就業状況「常勤」の変化を、第1回調査時のきょうだい構成別にみると、「ひとり」では第2回調査で約2割減少して81.7%となり、弟妹の割合が増えるが第6回調査では常勤が67.6%となっている。一方「兄姉のみ」でも常勤の割合は減少しているが第6回調査で79.9%と、「ひとり」に比べ「常勤」として継続している割合が高い。(図12)

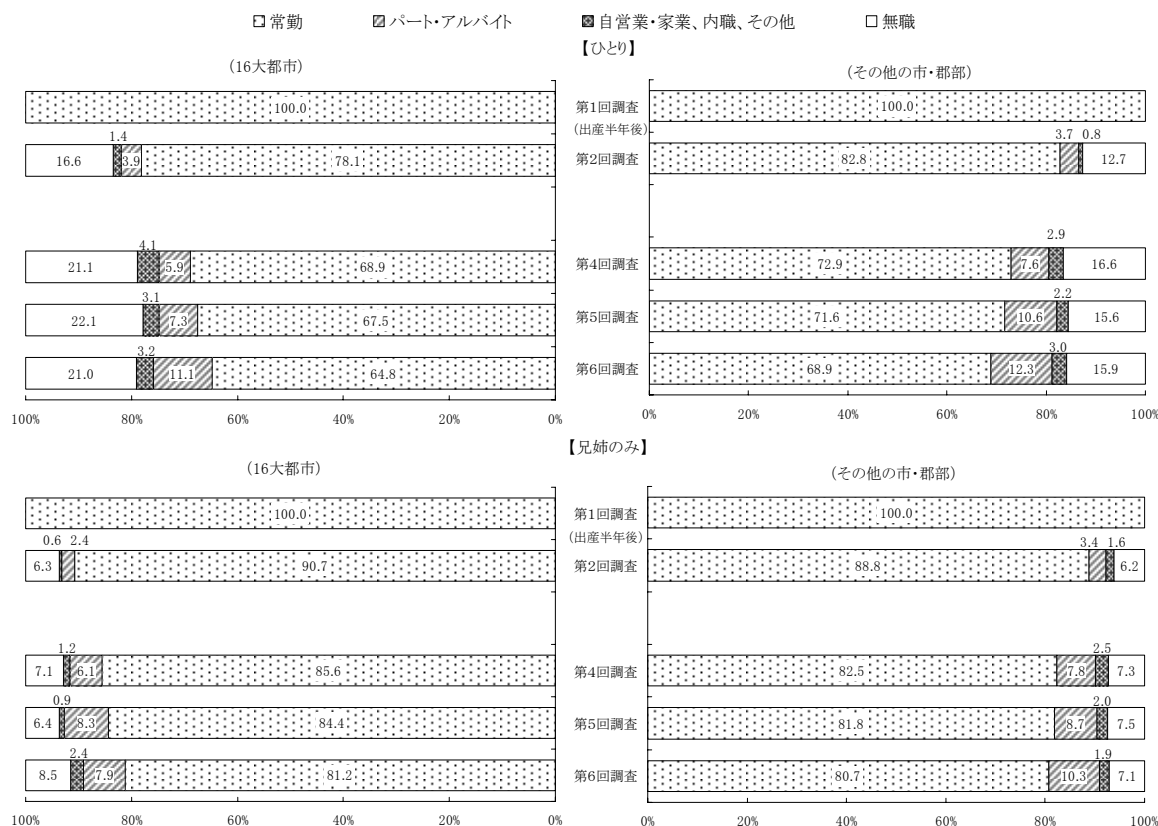
就業状況の変化を第1回調査時のきょうだい構成別にみると、「ひとり」が「兄姉のみ」に比べ「常勤」から移動する者が多くなっている。特に「16大都市」で移動が多く、「無職」が第2回調査で16.6%、第6回調査で21.0%となり、「常勤」の割合は64.8%と少なくなっている。(図13)

図12 出産半年後に育児休業を取得した母の就業状況「常勤」及びきょうだい構成の変化



注：1) 母と同居している、第1回調査から第6回調査まで回答を得た、母の就業状況「不詳」を除く者(総数 33,395)を集計。  
 2) 「育児休業取得あり」とは、第1回調査(出産半年後)に育児休業を「すでに取得した」、「現在、育児休業中である」、「これから取得する予定である」者をいう。  
 3) 第3回調査は母の就業状況を調査していない。

図13 出産半年後に育児休業を取得した母の就業状況の変化

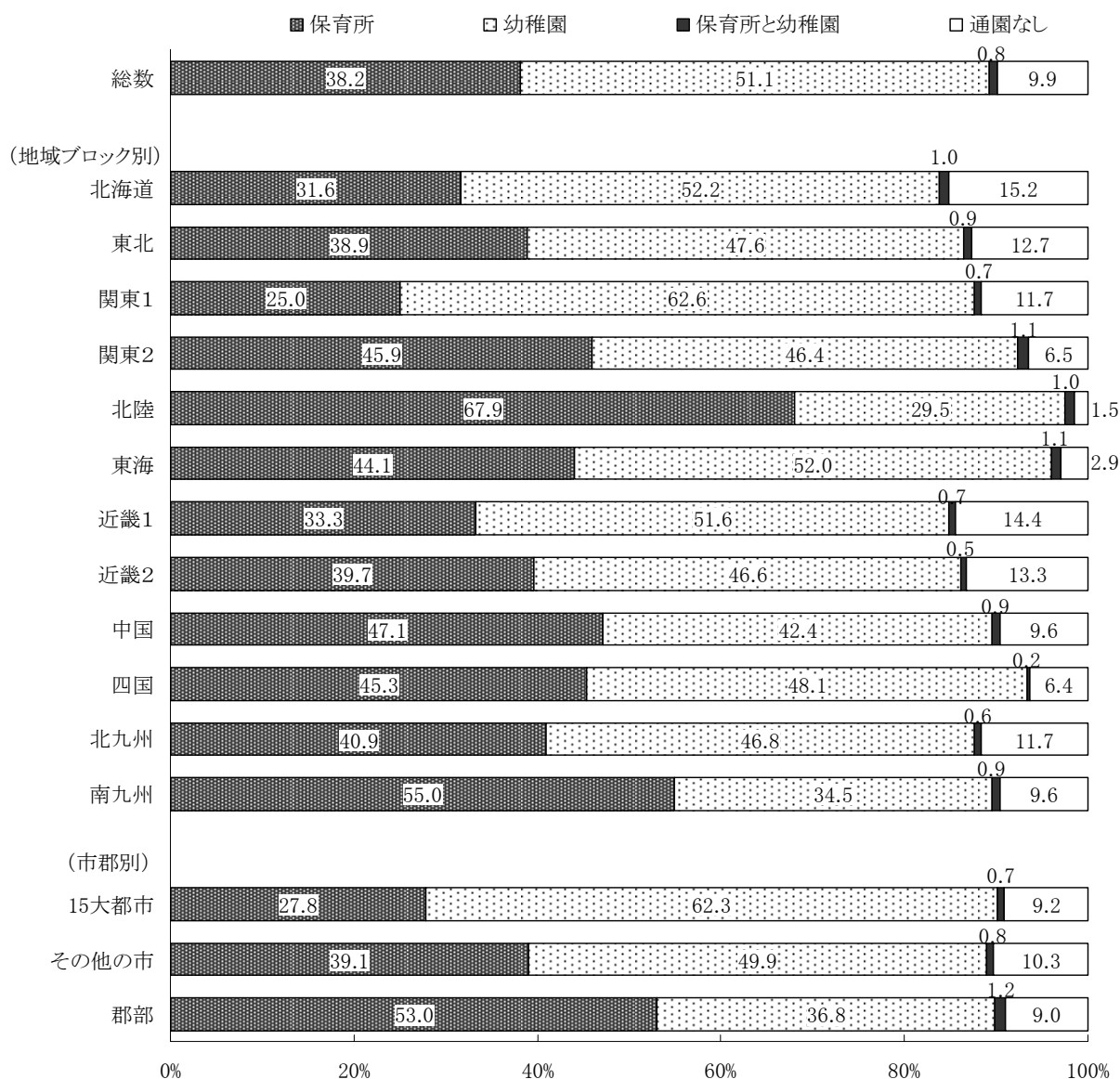


注：1) 母と同居している、第1回調査から第6回調査まで回答を得た、母の就業状況「不詳」を除く者(総数 33,395)を集計。  
 2) 「育児休業取得あり」とは、第1回調査(出産半年後)に育児休業を「すでに取得した」、「現在、育児休業中である」、「これから取得する予定である」者をいう。  
 3) 第3回調査は母の就業状況を調査していない。  
 4) 「16大都市」は、第1回調査から第5回調査までの住所地を、第6回調査時の「16大都市」の地域に区分した。

## カ 地域別にみた通園の状況

第5回調査時（4歳6か月）の通園の状況をみると、総数では「保育所」が38.2%、「幼稚園」が51.1%と「幼稚園」に通園の割合が多いが、地域ブロック別で見ると、「保育所」は「北陸」（67.9%）と「南九州」（55.0%）が高く、幼稚園では「関東1」（62.6%）と「北海道」（52.2%）が高い。また市郡別にみると、「15大都市」では「幼稚園」（62.3%）の割合が高く、「郡部」では逆に「保育所」（53.0%）が高くなっている。（図14）

図14 地域ブロック・市郡別にみた第5回調査時（4歳6か月）の通園の状況



注：1）母と同居している、第1回調査から6回調査まで回答を得た、母の就業状況「不詳」、通園状況「不詳」を除く（総数33,371）を集計。

2）総数には外国在住分を含む。

3）「地域ブロック」「市郡」は第5回調査の状況である。

「地域ブロック」の区分は以下のとおりである。

「北海道」北海道

「関東1」埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

「北陸」新潟県、富山県、石川県、福井県

「近畿1」京都府、大阪府、兵庫県

「中国」鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

「北九州」福岡県、佐賀県、長崎県、大分県

「15大都市」の区分は以下のとおりである。

東京都区部、札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、静岡市、名古屋市、京都市、大阪市、神戸市、広島市、北九州市、福岡市

「東北」青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

「関東2」茨城県、栃木県、群馬県、山梨県、長野県

「東海」岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

「近畿2」滋賀県、奈良県、和歌山県

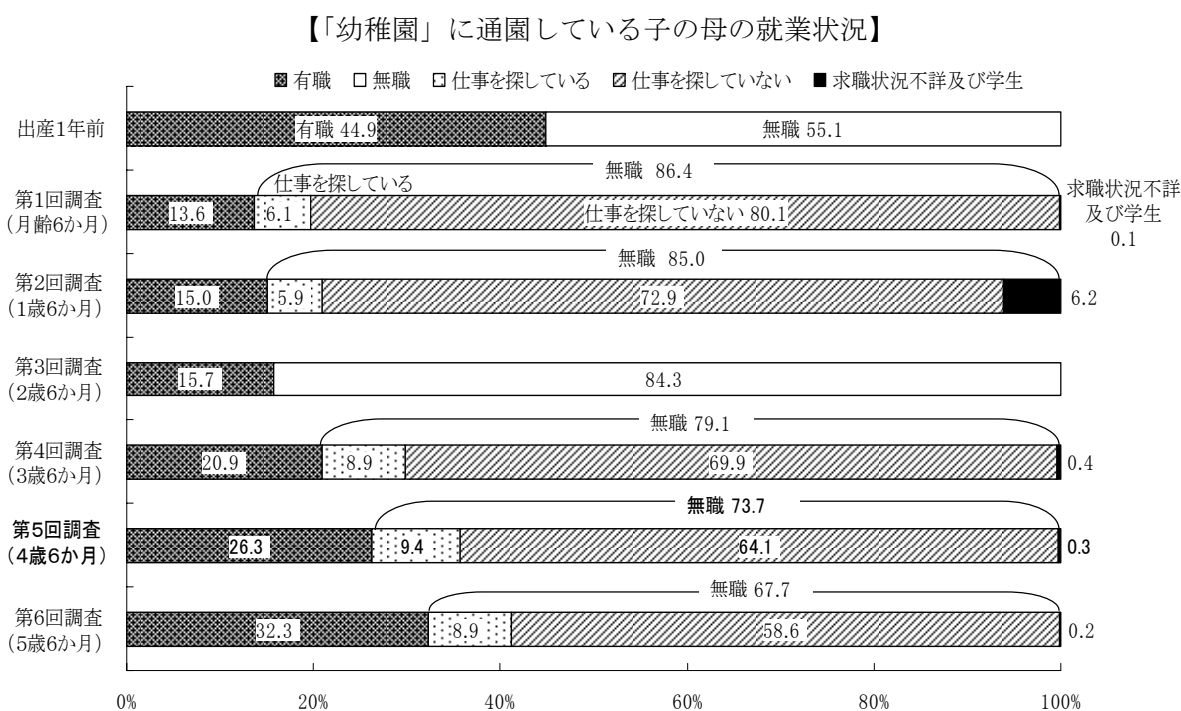
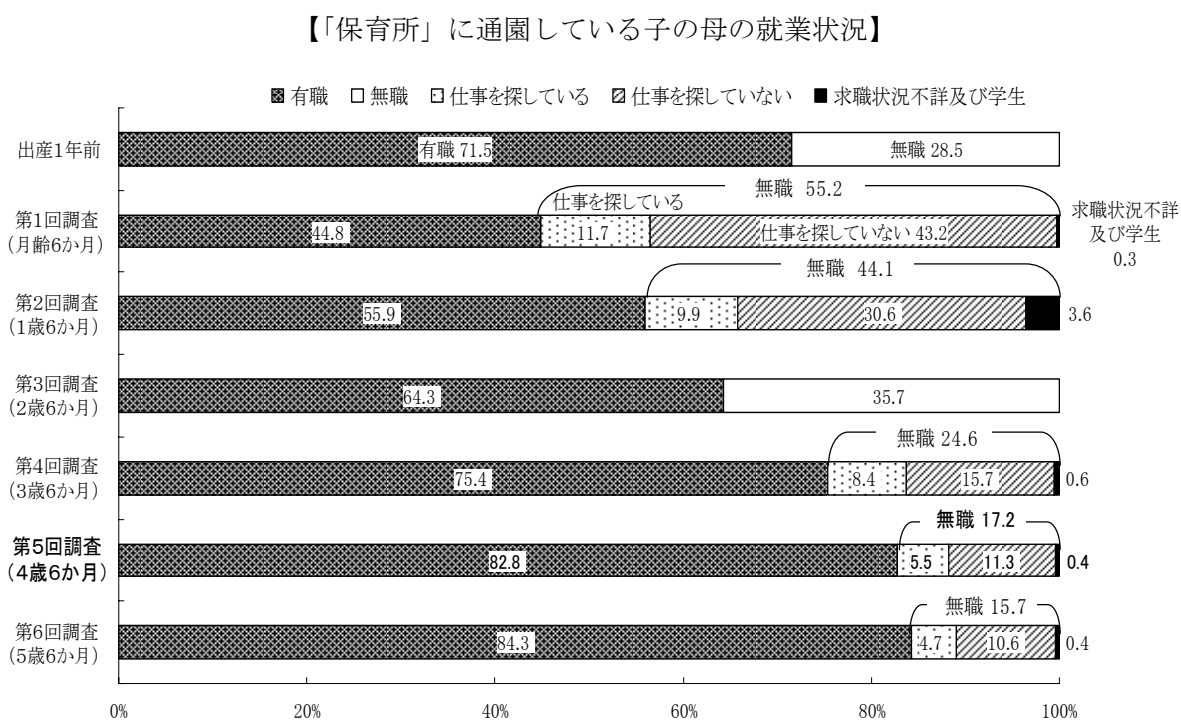
「四国」徳島県、香川県、愛媛県、高知県

「南九州」熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

## キ 通園の状況別にみた母の就業状況の変化

第5回調査時（4歳6か月）の通園状況別に母の就業状況の変化をみると、保育所に通園している子の母は、出産1年前では「有職」71.5%、「無職」28.5%で、第1回調査（月齢6か月）では「有職」が44.8%と減少したが、年々増加して、第6回調査（5歳6か月）では、「有職」84.3%、「無職」15.7%となっている（図15）。

図15 第5回調査時（4歳6か月）の通園状況別にみた母の就業状況の変化



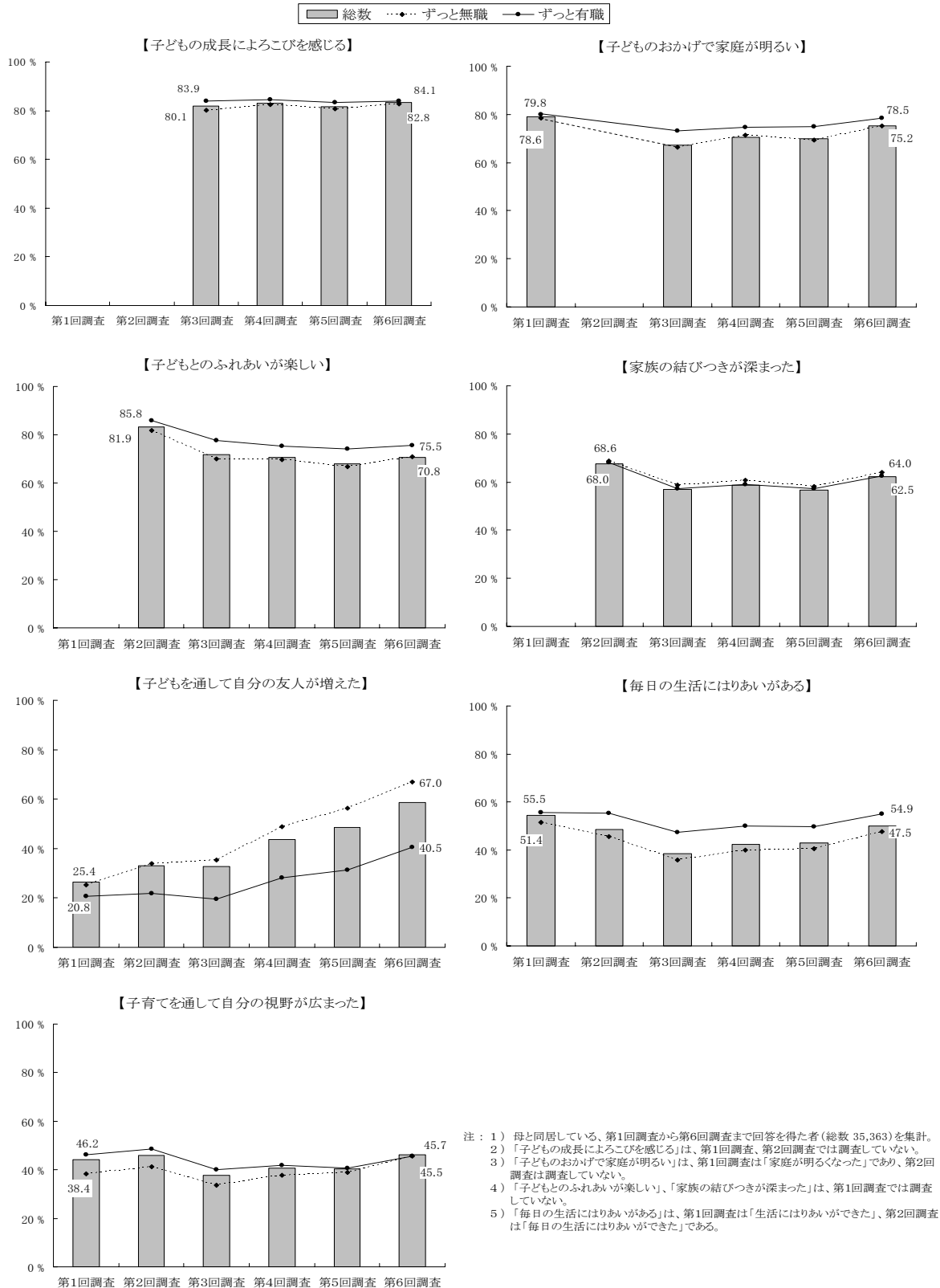
注：1）母と同居している、第1回調査から6回調査まで回答を得た、母の就業状況「不詳」、通園状況「不詳」を除く者（総数33,371）を集計。  
2）出産1年前、第3回調査は求職状況を調査していない。

## 2 子育ての意識

### (1) 子どもを育ててよかったと思うこと

子どもを育ててよかったと思うこと（複数回答）の変化を、母の就業の有無別に比較すると、「子どもを通して自分の友人が増えた」では「ずっと無職」の割合が高く、「毎日の生活にはりあいがある」では「ずっと有職」の割合が高くなっている（図16）。

図16 母の就業の有無別にみた主な子どもを育ててよかったと思うこと（複数回答）



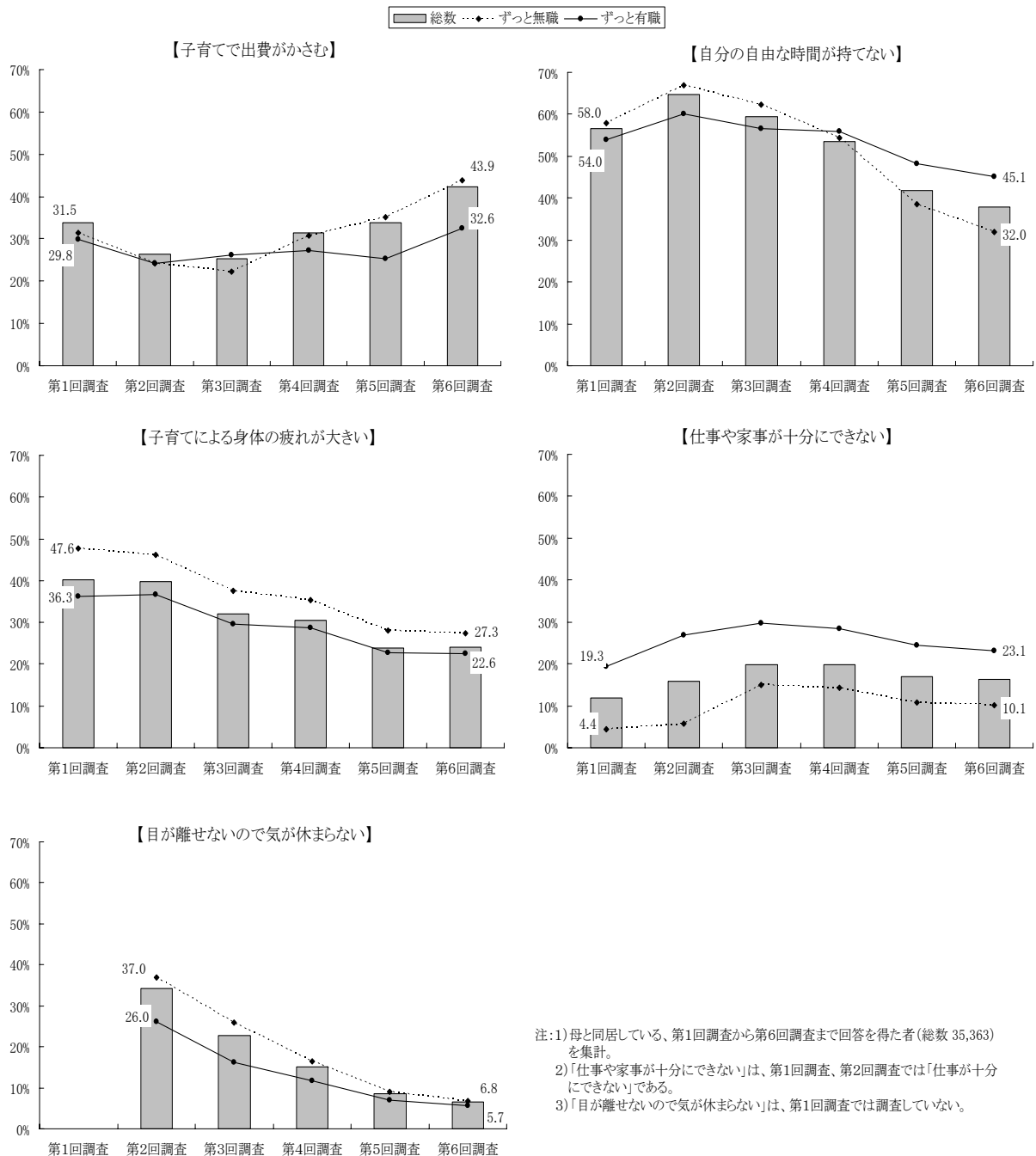
注：1）母と同居している、第1回調査から第6回調査まで回答を得た者（総数 35,363）を集計。  
 2）「子どもの成長による喜びを感じる」は、第1回調査、第2回調査では調査していない。  
 3）「子どものおかげで家庭が明るい」は、第1回調査は「家庭が明るくなった」であり、第2回調査は調査していない。  
 4）「子どもとのふれあいが楽しい」、「家族の結びつきが深まった」は、第1回調査では調査していない。  
 5）「毎日の生活にはりあいがある」は、第1回調査は「生活にはりあいがあった」、第2回調査は「毎日の生活にはりあいがあった」である。



## (2) 子どもを育てていて負担に思うことや悩み

子どもを育てていて負担に思うことや悩み（複数回答）の変化を、母の就業の有無別に比較すると、「子育てによる身体の疲れが大きい」、「目が離せないので気が休まらない」は「ずっと無職」の割合が高く、「仕事や家事が十分にできない」は、「ずっと有職」の割合が高くなっている。また、第4回調査以降「子育てで出費がかさむ」は「ずっと無職」の割合が高くなり、「自分の自由な時間が持てない」は「ずっと有職」の割合が高くなっている。母の就業の有無により、負担に思うことや悩みに差が出ている。（図17）

図17 母の就業の有無別にみた子どもを育てていて負担に思うことや悩み（複数回答）



### 3 子どもの生活の状況

#### (1) 子どもの成長(身長と体重)

出生時(平成13年)から5歳6か月(第6回調査)までの体重と身長推移を性別にみると、男児は出生時の平均体重と平均身長は3,076g、49.2cmとなっており、1歳6か月(第2回調査)では身長が出生時から約32cm伸びて81.1cmとなり、体重も約7.8kg増え10.9kgとなっている。5歳6か月においては、平均体重が18.9kg、平均身長が110.5cmとなっている。また女児は男児との差はあるものの、同様の傾向で成長している。(表3)

出生時の体重別に、平均体重と平均身長の5歳6か月までの推移をみると、2,500g未満と2,500g以上の子どもでは、調査回毎に差はあるものの同様の傾向で成長している(表4、図18、図19、図20)。

表3 平均体重・平均身長の推移

	男児			女児		
	体重(kg)	身長(cm)	身長差(cm)	体重(kg)	身長(cm)	身長差(cm)
出生時	3.076	49.2	-	2.990	48.7	-
1歳6か月	10.9	81.1	31.9	10.3	79.7	31.0
2歳6か月	13.1	90.0	8.9	12.6	88.8	9.1
3歳6か月	15.0	97.2	7.2	14.5	96.2	7.4
4歳6か月	16.8	104.0	6.8	16.5	103.2	7.0
5歳6か月	18.9	110.5	6.5	18.5	109.8	6.6

注：第1回調査から第6回調査まで回答を得た、出生体重・身長、各回の体重・身長の「不詳」を除く者(男児 9,177、女児 8,505)を集計。

表4 平均体重・平均身長の推移(出生時体重2,500g以上と2,500g未満)

		男児			女児		
		総数	出生時 2500g以上	出生時 2500g未満	総数	出生時 2500g以上	出生時 2500g未満
平均 体重 (kg)	出生時	3.076	3.146	2.173	2.990	3.068	2.222
	1歳6か月	10.9	10.9	10.1	10.3	10.3	9.6
	2歳6か月	13.1	13.2	12.2	12.6	12.7	11.8
	3歳6か月	15.0	15.1	14.0	14.5	14.6	13.6
	4歳6か月	16.8	16.9	15.7	16.5	16.6	15.4
	5歳6か月	18.9	19.0	17.7	18.5	18.6	17.3
平均 身長 (cm)	出生時	49.2	49.6	45.0	48.7	49.1	45.2
	1歳6か月	81.1	81.2	79.1	79.7	79.9	78.0
	2歳6か月	90.0	90.1	88.1	88.8	89.0	87.1
	3歳6か月	97.2	97.4	95.2	96.2	96.4	94.5
	4歳6か月	104.0	104.2	102.0	103.2	103.4	101.4
	5歳6か月	110.5	110.7	108.3	109.8	110.0	107.6

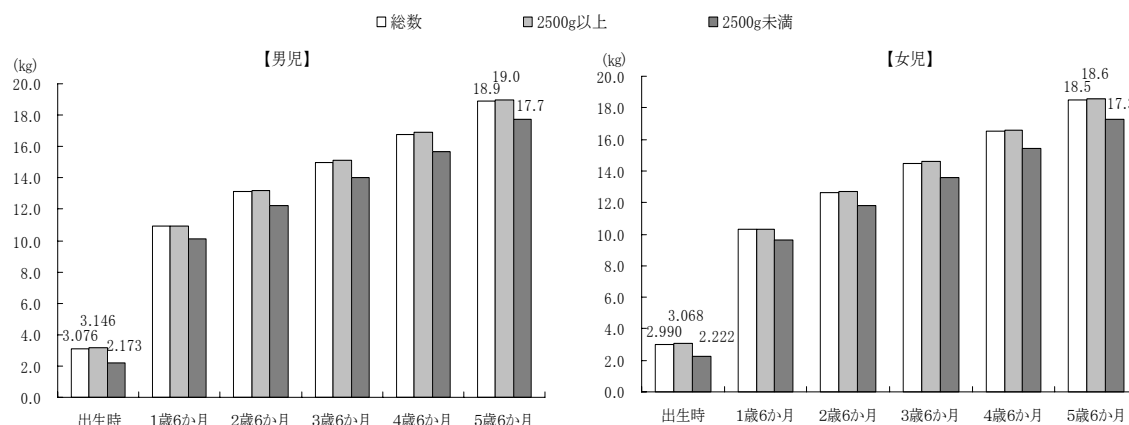
注：1) 第1回調査から第6回調査まで回答を得た、出生体重・身長、各回の体重・身長の「不詳」を除く者(男児 9,177、女児 8,505)を集計。

2) 出生時体重「2,500g以上」、「2,500g未満」の総数に対する割合は以下のとおりである。

男児 「2,500g以上」92.7%、「2,500g未満」7.3%

女児 「2,500g以上」90.8%、「2,500g未満」9.2%

図18 平均体重の推移(出生時体重2,500g以上と2,500g未満)



注：第1回調査から第6回調査まで回答を得た、出生体重・身長、各回の体重・身長の「不詳」を除く者(男児 9,177、女児 8,505)を集計。